Panasonic®

取扱説明書　指紋認証の使い方

パーソナルコンピューター

品番 CF-S10/CF-N10/CF-F10/CF-B10シリーズ

（Windows 7/Windows XP）

本書では、指紋認証機能について説明しています。本書をよくお読みいただき、大切に保管してください。
本書では、Windows 7の画面を例として掲載しています（一部除く）。

使用上のお願い

指紋認証ご使用時のセキュリティについて

- 指紋認証技術は完全な本人認証や識別を保証するものではありません。指紋認証を使ったこと、または使えなかったことにより発生した損害については、当社では一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 指紋センサーの誤動作によるデータの紛失については、当社では一切責任を負いかねます。
- 個人を特定する十分な情報が指紋にないときなどは、登録ができない場合があります。
- 他社製アプリケーションソフトとの相互運用への保証はありません。
- 指紋認証には指紋データや信用証明データ、複数のパスワードを使用します。これらを紛失すると本機を使用できなくなることがありますので、安全な場所にデータを保管してください。詳しくは「パスポートのバックアップ／復元をする」をご覧ください（➡32ページ）。

指紋センサーの取り扱いについて

- 次のことを行わないでください。指紋センサーの不具合や破損の原因になります。
  - 表面を硬いものでこすったり、ひっかいたり、先のとがったものでつついたり、小さいもので表面を傷つけたりする。
  - 泥などで汚れた指で触る。
  - 表面をシールで覆ったり、汚したりする。
- 次の場合、指紋センサーの感度が悪くなったり、登録や認証が行われなかったりする場合があります。
  - 指紋センサーの表面がほこりや皮脂、汗で汚れている場合
  - 指紋センサーの表面が湿気や結露によりぬれている場合
  - 指が湿っていたり、極度に乾燥していたりする場合
  - 指に傷や炎症がある場合
  - 指紋が摩耗して、溝が浅くなっている場合
  - スライドが速すぎたり遅すぎたりする場合
  - お風呂上がりなどで指がふやけている場合
  - 太ったりやせたりして指紋が変化した場合
- 次の方法を行うと、指紋センサーの感度が上がる場合があります。
  - 柔らかい布などで、指紋センサーをふく。
  - 手を洗ったりふいたりする。
  - 別の指を使って、登録や認証を行う。
  - 極度に乾燥しているときは、ハンドクリームで指を手入れする。
- 静電気により、指紋センサーが誤動作する場合があります。静電気を起こさないようにするためには、指紋センサーに触る前に、金属の表面を触って静電気を取り除いてください。特に冬などの乾燥した状態では、静電気に気を付けてください。
- 指紋センサーの故障などにより修理を依頼された場合、修理内容によっては保存されているパスワードなどがリセットされる場合があります。あらかじめご了承ください。

設定するパスワードについて

本機で設定するパスワードには、次のようなものがあります（お使いの環境により、設定するパスワードの種類や数は異なります）。設定したパスワードは絶対に忘れないようにメモに取り、第三者の目に触れないように鍵のかかる引き出しや金庫などに大切に保管してください。
ログオンパスワードとスーパーバイザーパスワードを忘れると、本機やWindowsが使用できなくなりますので、絶対に忘れないでください。また、ログオンパスワードとスーパーバイザーパスワードは、指紋認証機能とは別に設定、変更が可能です。これらのパスワードを変更しても指紋認証機能には影響しません。

●ログオンパスワード
Windowsにログオンするときに使用します。
●スーパーバイザーパスワード
セットアップユーティリティの重要なセキュリティ機能や各デバイスの設定変更を行うためのパスワードです。セットアップユーティリティ起動時、スーパーバイザーパスワードを入力すると、セットアップユーティリティのすべての項目を設定できます。
●バックアップパスワード
指のけがや指紋センサーの故障などで指紋認証が使えない場合に、指紋認証の代替手段として指紋認証ユーティリティ全体にわたって使用します。
●パワーオンパスワード
指のけがや指紋センサーの故障などで指紋認証が使えない場合に、パワーオンセキュリティの指紋認証の代わりに使用するパスワードです。
本機には1つだけ設定することができます。このパスワードを忘れると、指紋認証以外の方法で本機を起動することはできません。

指紋認証機能と内蔵セキュリティチップ（TPM）を組み合わせて使用する場合は、Security Platformをインストールして所有者パスワードを設定する必要があります。内蔵セキュリティチップ（TPM）については、『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』（➡28ページ）、またはSecurity Platformをインストールして以下の手順でヘルプをご覧ください。
< Windows 7の場合>
（スタート）-[すべてのプログラム]-[Infineon Security Platform ソリューション]-[ヘルプ]をクリックしてください。
< Windows XPの場合>
[スタート]-[すべてのプログラム]-[Infineon Security Platform ソリューション]-[ヘルプ]をクリックしてください。

●所有者パスワード
内蔵セキュリティチップ（TPM）使用時に、所有者であることを証明するキー（暗号鍵）を利用するためのパスワードです。

指紋認証機能とは

本機のセキュリティ機能には、ユーザーアカウントとパスワードの設定で使用者を限定する方法などがあります。これらのセキュリティでは、パスワード入力時にパスワードを盗み見られる可能性があります。指紋認証機能を使うと、指紋センサーに指をスライドさせることでWindowsへのログオンなどができるため、パスワードを盗み見られる心配がありません。

指紋認証機能でできること

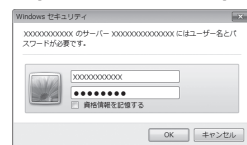
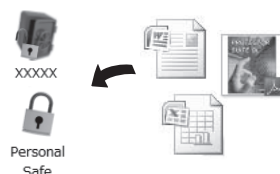
複雑なパスワードを覚える必要がない

指紋センサーに指をスライドさせるだけで、Windowsへのログオンや、アカウントやパスワードの入力が必要な会員制のWebページへのログイン（パスワードバンク）が可能になります。複雑なパスワードをいくつも覚えておく必要がなくなります。

第三者の不正使用を防止できる

指紋を登録している人だけがパソコンを起動できるようにしたり（パワーオンセキュリティ）、他人に見られたくないファイルやフォルダーを暗号化したり（File Safe/Personal Safe）することができます。

指紋を使ってアプリケーションやファイルを起動させる

指紋センサーに指をスライドさせるだけで、登録したアプリケーションやファイルを起動することができます（アプリケーションランチャー機能）。

（お使いの機種により、指紋センサーの形状、位置は異なります）

指紋認証の初期設定を行う

指紋認証を使うまでの流れ

本機で指紋認証を使えるようにするには、次の流れで操作してください。

Windowsのユーザーアカウントとパスワードを設定する

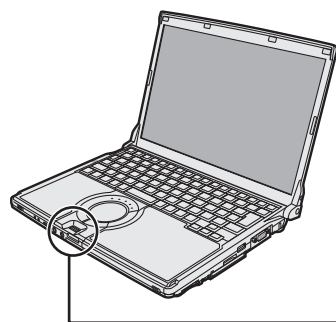
セットアップユーティリティでスーパーバイザーパスワードを設定する

管理者の権限でWindowsにログオンして、指紋認証ユーティリティ（Protector Suite 2009）をセットアップする

本機を使用するユーザーアカウントでログオンして、指紋の登録を行う
- 指紋データの登録場所を選択する
- Windowsのログオンパスワードを登録する
- 指紋データを登録する
- バックアップパスワードを設定する
- パワーオンセキュリティを設定する

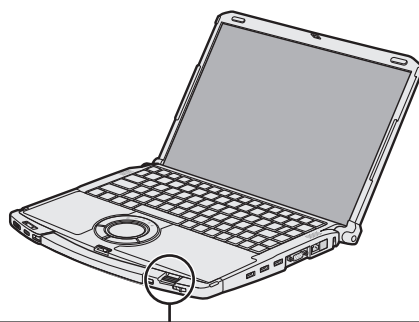
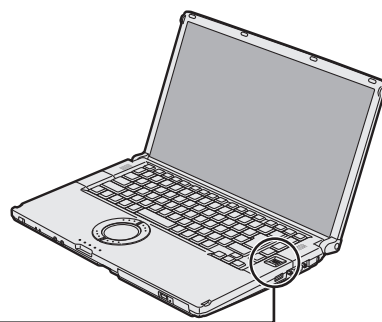
<Windows 7の場合＞
操作中に「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]をクリックしてください。

指紋センサーの位置について

CF-S10/CF-N10シリーズ
（CF-S10シリーズのイラストです。）

CF-F10シリーズ

CF-B10シリーズ

（お使いの機種により、指紋センサーの形状は異なります。）

導入編

指紋認証の初期設定を行う

ステップ1　ユーザーアカウントとパスワードを設定する

指紋認証を使用するユーザーアカウントとWindowsのログオンパスワードをすでに設定している場合は、次の「ステップ2 スーパーバイザーパスワードを設定する」に進んでください。
指紋認証を使用するユーザーアカウントを設定していない場合は、『操作マニュアル』「（セキュリティ）」をご覧になり、新しくユーザーアカウントとパスワードを設定してください。

メモ

●ユーザーアカウントには、次の種類があります。
- 管理者（Windows XPの場合はコンピューターの管理者）
- 標準ユーザー（Windows XPの場合は制限ユーザー）

標準ユーザー（制限ユーザー）のアカウントでは、一部実行できない操作や設定があります。

ステップ2　スーパーバイザーパスワードを設定する

セットアップユーティリティでスーパーバイザーパスワードを設定します。
詳しくは、『取扱説明書 基本ガイド』「セットアップユーティリティ」をご覧ください。

ステップ3　指紋認証ユーティリティ（Protector Suite 2009）をセットアップする

① ＜Windows 7の場合＞
管理者の権限でWindowsにログオンする。
標準ユーザーでログオンしている場合は、（スタート）- をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、管理者の権限でログオンしてください。
＜Windows XPの場合＞
コンピューターの管理者の権限でWindowsにログオンする。
制限ユーザーでログオンしている場合は、[スタート]-[ログオフ]をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、コンピューターの管理者の権限でログオンしてください。

② 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了する。

③ ＜Windows 7（32ビット）の場合＞
（スタート）をクリックし、[プログラムとファイルの検索]に
[c:¥util¥drivers¥fngprint¥install¥32-bit¥setup.exe]と入力して Enter を押す。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]をクリックしてください。
＜Windows 7（64ビット）の場合＞
（スタート）をクリックし、[プログラムとファイルの検索]に
[c:¥util¥drivers¥fngprint¥install¥64-bit¥setup.exe]と入力して Enter を押す。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]をクリックしてください。
＜Windows XPの場合＞
[スタート]-[ファイル名を指定して実行]をクリックして、次のように入力し、[OK]をクリックする。
c:¥util¥drivers¥fngprint¥install¥32-bit¥setup.exe

④「Protector Suite 2009 セットアップ」画面で、[次へ]をクリックする。

⑤ Protector Suite 2009をインストールするフォルダーを確認して、[次へ]をクリックする。

⑥ [次へ]をクリックする。

⑦「Protector Suite 2009 は、正常にインストールされました。」の画面が表示されたら、[完了]をクリックする。

⑧ [はい]をクリックする。
本機が再起動します。

メモ

- ようこそ画面で「登録された指紋がありません」という画面が表示された場合は、[OK]をクリックして、Windowsのログオンパスワードを入力してください。また、指紋認証が使えない場合は、指紋認証の画面で ✕（Windows XPの場合は ✕）をクリックするか Esc を押すことで、バックアップパスワードを入力して認証を行うことができます。バックアップパスワードを設定していない場合は、Windowsのログオンパスワードを入力してください。
- Windowsにログオンした後、指紋を登録する前に指紋センサーに触れると、「指紋読み取り装置の概要」の画面が表示される場合があります。

これで、指紋認証ユーティリティのセットアップは完了です。

ステップ4　指紋を登録する

指紋データの登録場所を選択する

① 指紋を登録するユーザーのアカウントでWindowsにログオンする。
画面右下の通知領域のをクリックすると、（指紋ソフトウェア）が表示されます。
（Windows XPの場合は、画面右下のタスクトレイに（指紋ソフトウェア）が表示されます。）

② （スタート）（Windows XPの場合は［スタート］）-[すべてのプログラム]-[Protector Suite]-[コントロールセンター]をクリックする。

③「エンドユーザライセンス契約」をよく読み、[受け入れる]をクリックする。

④ 登録モードを選び、[適用]をクリックする。
指紋データは次のどちらかに登録されます。指紋データの登録場所は、指紋認証ユーティリティの再インストール以外の方法では、変更することはできません。登録先は慎重に選択してください。

- バイオメトリックスデバイスへの登録
指紋データが直接指紋センサーに登録されます。指紋センサーに内蔵されたハードウェア保護機能により、登録データは安全に保管されます。指紋センサーに登録できる指紋の数には制限があります。Windowsの再インストール後やOSの変更後も、登録した指紋データは保持されています。Windowsの再インストールやOSの変更をする場合は、必ず指紋データを消去してから行ってください（➡37ページ）。

メモ

●指紋センサーに登録できる指の数は、指紋の特徴によって増減する場合があります。

- ハードディスクへの登録
指紋データはハードディスクに保存されます。登録できる指紋の数に制限はありません。ただし、パワーオンセキュリティ（➡10ページ）で登録できる指紋の数には上限があります。

Windowsのログオンパスワードを入力する

① Windowsのログオンパスワードを入力し、[送信]をクリックする。

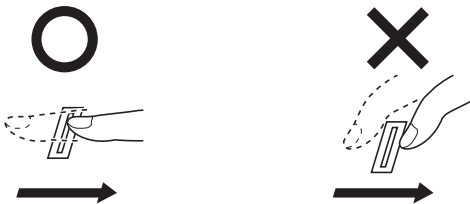
指紋データを登録する

① 登録したい指のボタンをクリックする。

（お使いの状況により、画面は異なります）

② 手順①で選択した指をプログレスバーが100%に達するまで複数回指紋センサーにスライドさせる。
プログレスバーが100%に達するまで、指をスライドさせてください。
スライド時、ホイールパッドをタップしたり、ホイールパッドのボタンを押したりして、×（Windows XPの場合は×）をクリックしないように気を付けてください。

重 要

●指紋を登録するときは、読み込みエラーを防ぐために次のことに注意してください。
- 登録したい指の第一関節を指紋センサーの上に置き、指紋の中心部が指紋センサーの中央を通るようにする。
- 指紋センサーから指を離さずに、手前に指をスライドさせる。
- 指紋センサーが見えるまでスライドさせる。

（お使いの機種により、指紋センサーの形状は異なります）

●次の場合、正しく登録や認証ができない場合があります。
- スライドが速すぎる、または遅すぎる。
- 指に汚れや傷がある。
- 指が湿っていたり、乾燥しすぎたりしている。

詳しくは、「指紋センサーの取り扱いについて」（➡2ページ）をご覧ください。

●まれに指紋認証に必要な特徴を十分検出できない場合があります。
このような場合は、他の指を使って登録してください。

③ 別の指のボタンをクリックする。

●必ず2本以上の指を登録してください。万一1本の指をけがした場合でも、他の指を使用することができます。

④ 登録する指をプログレスバーが100%に達するまで複数回指紋センサーにスライドさせる。

⑤「セキュリティ機能を有効にして新しい指を追加できるようにするには、元の指を検証する必要があります。今すぐ指をスキャンしてください。」のメッセージが表示された場合は、[OK]をクリックし、手順②で登録した指をスライドさせ、認証を行う。

⑥ 3本以上の指を登録する場合は、手順③～④を繰り返す。

⑦ ＜ Windows 7の場合＞
[コントロールセンターホーム]-[アカウント操作]をクリックし、[バックアップパスワード]をクリックする。

＜ Windows XPの場合＞
[保存して続行]をクリックする。

バックアップパスワードを設定する

①「新しいバックアップパスワードの入力」と「新しいバックアップパスワードの再入力」欄に任意のパスワードを入力し、[適用]をクリックする。

●5文字以下のパスワードを設定して[適用]をクリックすると、確認画面が表示されます。

パワーオンセキュリティを設定する

パワーオンセキュリティを有効に設定しておくと、本機の電源を入れた直後に指紋認証の画面が表示されます。指紋が正しく認証されないとWindowsが起動しないため、第三者による不正な使用を防ぐことができます。
パワーオンセキュリティの設定は、指紋センサーに登録されます。パワーオンセキュリティで登録できる指紋の数には上限があります。
標準ユーザー（制限ユーザー）でログオンしている場合は、パワーオンセキュリティの有効化／無効化の設定はできません。Windows 7の場合は、手順②の後に手順⑦を実行し、手順⑫へ進んでください。Windows XPの場合は、手順⑦を実行し、手順⑫へ進んでください。

① <Windows 7の場合＞
[コントロールセンターホーム]をクリックする。
<Windows XPの場合＞
手順③に進む。

② [状況]をクリックする。

③「パワーオンセキュリティの状態」の[変更]をクリックする。

④ ＜ Windows 7の場合＞
[編集]をクリックする。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]をクリックしてください。
＜ Windows XPの場合＞
手順⑤に進む。

⑤ [パワーオンセキュリティの有効化]をクリックしてチェックマークを付け、[適用]をクリックする。

⑥ [状況]をクリックする。

⑦「BIOSパスワードの状態」の[変更]をクリックする。

⑧ [パスワードの管理]をクリックする。

⑨「パスワードのタイプ」の[パワーオン]をクリックして選択し、[パスワードの設定]をクリックする。

⑩ 指のけがや指紋センサーの故障などで指紋認証が使えない場合に備えて、パワーオンセキュリティ用のパスワード(パワーオンパスワード)を入力し、[OK]をクリックする。
大文字／小文字の違いに注意して入力してください。

メモ

●パワーオンパスワードには、半角の英数字とスペースを使用することをお勧めします。

重要

●パワーオンパスワードは、パソコンの起動時に指紋認証が利用できない場合、指紋認証の代わりに使用するものです。本機には1つだけ設定することができます。複数のユーザーで指紋認証を利用する場合は、ここで設定したパスワードを共通で使用します。
●パワーオンパスワードは、セットアップユーティリティで設定したスーパーバイザーパスワードとは異なります。このパスワードを忘れると、指紋認証以外の方法で本機を起動することができませんのでご注意ください。

⑪ [閉じる]をクリックする。

⑫ [パワーオン]の左の をクリックする。

⑬ 手順⑩で入力したパワーオンパスワードを入力し、[OK]をクリックする。

⑭ [適用]をクリックする。

⑮ (Windows XPの場合は)をクリックする。

これで、指紋認証の初期設定は完了です。
本機を再起動し、実際に指紋認証でログオンできるか確認してください(➡13ページ)。

指紋認証の初期設定を行う

指紋認証の初期設定が完了すると、以下のような機能を使うことができます。

- パスワードバンク機能
  ユーザー名やパスワードの入力が必要な会員制のWebページや各種ダイアログ画面で、指紋認証でログインできます。
  （➡15ページ）
- アプリケーションランチャー機能
  登録済みのアプリケーションやファイルを、登録した指をスライドさせて起動することができます。
  （➡17ページ）
- ストロングパスワードジェネレータ機能
  辞書攻撃を受けにくい複雑なパスワードを生成できます。生成されたパスワードは保存されて必要に応じて使用することができます。また、パスワードバンクに登録することもできます。
  （➡19ページ）
- File Safe機能
  指紋認証を使ってファイルやフォルダーを暗号化できます。
  （➡21ページ）
- Personal Safe機能
  指紋認証を使って非表示のフォルダー内にあるファイルを暗号化できます。
  フォルダーは、本機を共有している他のユーザーには表示されません。
  （➡24ページ）
- E-Wallet機能
  重要な個人情報（クレジットカード情報や口座番号など）を保管できます。
  （➡26ページ）

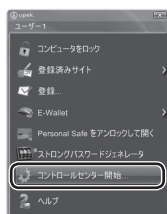
「コントロールセンターホーム」画面を表示する

指紋認証ユーティリティの設定後、指紋認証ユーティリティの機能を使うときや、設定を変更するときは、「コントロールセンターホーム」画面を表示して操作を行います。

① （スタート）（Windows XPの場合は[スタート]）-[すべてのプログラム]-[Protector Suite]-[コントロールセンター]をクリックする。

② 指紋認証の画面で登録している指をスライドさせ認証を行う。
「コントロールセンターホーム」画面が表示されます。

メモ

● デスクトップ画面が表示されている状態で登録している指をスライドさせると、次の画面（バイオメトリックメニュー）が表示されます。[コントロールセンター開始...]をクリックしても、「コントロールセンターホーム」画面を表示することができます。

指紋認証でWindowsにログオンする

Windowsのログオンに使う

指紋を登録しておくと、Windowsへのログオン時に、パスワード入力の代わりに登録している指をスライドさせてログオンできます。

① 本機の電源を入れる。

② Windowsのログオン画面が表示されたら、登録している指をスライドさせる。
Windowsにログオンします。

スリープ状態（Windows XPの場合はスタンバイ状態）から指紋認証でWindowsにログオンしたい場合は、セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューでパスワードを設定し、[復帰時のパスワード] を [無効] に設定し、Windowsのパスワードを有効にする。
Windowsのパスワードを設定する手順については下記をご覧ください。
＜ Windows 7の場合＞
『操作マニュアル』-「（セキュリティ）」-「ユーザーアカウント/Windows パスワードを設定する」-「Windowsパスワードを活用する」-「スリープ状態 / 休止状態からの復帰時（リジューム）のパスワード入力を設定する」
＜ Windows XPの場合＞
『操作マニュアル』-「（セキュリティ）」-「パソコン起動時 /リジューム時のパスワードを設定する」-「スタンバイ状態 /休止状態からの復帰時（リジューム）のパスワード入力を設定する」

パワーオンセキュリティを有効にしている場合

初期設定でパワーオンセキュリティを有効に設定した場合、電源を入れた直後（Windowsが起動していない状態）に、スーパーバイザーパスワードやユーザーパスワードの入力画面の代わりに指紋認証の画面が表示されます。指紋センサーに登録している指をスライドさせてそのままWindowsにログオンすることができます。

① 本機の電源を入れる。
「Panasonic」起動画面が表示された後、指紋認証の画面が表示されます。

② 登録している指をスライドさせる。
Windowsにログオンします。

指紋認証でWindowsにログオンする

メモ

● 指紋認証の画面が表示されてから、40秒以内に登録している指をスライドさせてください。
指紋認証の画面が表示されてから40秒が経過すると、「指紋の読み取りに失敗しました」というメッセージが表示されます。「指紋の読み取りに失敗しました」というメッセージが3回表示されたり、指紋認証を3回失敗したりすると、パワーオンパスワードの入力画面が表示されます。パワーオンパスワードを入力してください。
スーパーバイザーパスワードの入力画面やWindowsのログオン画面が表示された場合は、それぞれのパスワードを入力してください。
● パワーオンセキュリティを有効にしている場合、パワーオンセキュリティによる指紋認証を1回行うだけでWindowsへのログオンまで自動的に行うように設定することができます（初期状態では有効に設定されています）。
パソコン起動時の認証とWindowsへのログオンを別々に行いたい場合は、11ページの手順⑤の画面で[ブート前に指紋認証を行い、Windowsに自動的にログオンできるようにする]をクリックしてチェックマークを外し、無効に設定してください。
● セットアップユーティリティの[Power On by LAN機能]が[許可]に設定されている場合は、LAN経由で本機を起動させると指紋認証の画面は表示されません。
● セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューでパスワードを設定し、[復帰時のパスワード] を [有効] に設定している場合で、スリープ状態（Windows XPの場合はスタンバイ状態）から復帰するときは、パスワードの入力画面が表示されます（指紋認証の画面は表示されません）。スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを入力してください。

Webページのログインに使う（パスワードバンク）

ユーザー名やパスワードの入力が必要な会員制のWebページや各種ダイアログ画面で、ログインするたびに情報を入力するのは面倒です。
このような画面で1回だけ情報を入力しておけば、次回から指紋認証でログインできるようにする機能がパスワードバンクです。

パスワードバンクに情報を登録する

① パスワードバンクに登録したいユーザー名やパスワードなどの入力画面、またはダイアログ画面を表示する。

② ユーザー名やパスワードなどの情報を入力する。

③ 入力画面が選択されている状態で、登録している指をスライドさせる。
認証が成功すると、「バイオメトリック メニュー」画面が表示されます。

④ [登録]をクリックする。

⑤「パスワードバンク登録ウィザード」画面で、[次へ]をクリックする。
以降、画面の指示に従って操作してください。

⑥「成功」の画面が表示されたら、[完了]をクリックする。

登録内容の確認・変更は、「コントロールセンターホーム」画面（➡12ページ）を表示し、[パスワードバンク]をクリックし、[登録の管理]をクリックして行います。

パスワードバンクでログインする

① パスワードバンクに登録した画面を表示する。

② 登録している指をスライドさせ、認証を行う。

③ [はい]をクリックする。
ユーザー名やパスワードが自動で入力され、ログインします。
[今後は表示しない]をクリックしてチェックマークを付けると、次回からこの画面は表示されません。

「セキュリティの警告」画面が表示された場合は、[はい]や[OK]をクリックしてください。
ユーザー名やパスワードは、キーボードを使って入力することもできます。

Webページのログインに使う（パスワードバンク）

重 要

●次の形式のWebページでは指紋認証は使用できません。
- JavaScript などを使用して自動生成されたWebページ
- 外見上１つのフォームに見えるが、内部では入力項目が複数のフォームに分かれているWebページ（ログインフィールド、パスワードフィールドなど）
- ログインや送信などのボタンがない、または入力後 Enter を押してもログインできないWebページ

また、次のアプリケーションソフトでは指紋認証は使用できません。
- 標準の入力フィールドを使っていないアプリケーションソフト
- Javaをベースにしたすべてのアプリケーションソフト

詳しくは、コントロールセンターホーム画面（➡12ページ）で、[ヘルプ]をクリックして、Protector Suite 2009のヘルプをご覧ください。

アプリケーションやファイルの起動に使う（アプリケーションランチャー機能）

登録済みのアプリケーションやファイルを、あらかじめ指紋センサーに登録しておいた指で起動することができます。

メ モ

●アプリケーションランチャー機能に使える指の本数は、「登録済みの指（指紋）の本数－1」です。登録済みの指のうち1本は、バイオメトリック メニューの表示用に使用するため、アプリケーションやファイルを割り当てずに残しておいてください。

登録した指とアプリケーションを関連付ける

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [アプリケーションランチャー]をクリックする。

③ アプリケーションランチャーに登録したいアプリケーションまたはファイルを、関連付けたい指の上のボタンにドラッグアンドドロップする。

④ アプリケーションが登録されている指の上のボックスをクリックすると「アプリケーション」情報入力画面が表示されるので、必要に応じて内容を変更して[OK]をクリックする（➡18ページ）。

⑤ [×]（Windows XPの場合は[×]）をクリックする。

メ モ

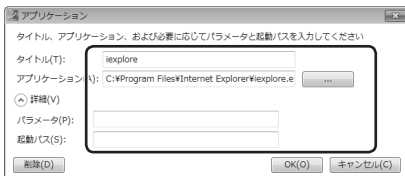
●手順③で画面左の「コントロールセンター」、「ロック」、「ログオフ」のアイコンをドラッグアンドドロップして登録することもできます。

アプリケーションまたはファイルと関連付けた指をスライドさせると、アプリケーションまたはファイルが起動します。

登録した指とアプリケーションの関連付けを削除する

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。
② [アプリケーションランチャー]をクリックする。
③ アプリケーションの関連付けを削除したい指の上のボックスをクリックする。
④ [削除]をクリックする。
⑤ [はい]をクリックする。
⑥ [x]（Windows XPの場合は[x]）をクリックする。

登録した指とアプリケーションの関連付けを編集する

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。
② [アプリケーションランチャー]をクリックする。
③ アプリケーションの関連付けを編集したい指の上のボックスをクリックする。
④ 設定を変更する。

[タイトル]：
アプリケーションのタイトルです。
任意のタイトルに変更できます。
[アプリケーション]：
登録した指に割り当てられているアプリケーションです。
[...]をクリックして、割り当てるアプリケーションを変更できます。

以下の項目は[詳細]をクリックすると表示されます。
[パラメータ]：
Internet ExplorerなどのWebブラウザーで特定のWebサイトを開く場合は、この項目にWebサイトのURLを入力してください。
[起動パス]：
Microsoft Wordドキュメントなどの特定のファイルを割り当てる場合は、ファイルへのパスを入力してください。

⑤ [OK]をクリックする。
⑥ [x]（Windows XPの場合は[x]）をクリックする。

強力なパスワードを生成する（ストロングパスワードジェネレータ）

ストロングパスワードジェネレータを使用すると、辞書攻撃を受けにくい複雑なパスワードを生成できます。生成されたパスワードは保存され、必要に応じて使用することができます。

パスワードを生成する

①「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [ストロングパスワードジェネレータ]-[ジェネレータ]をクリックする。

③「パスワード名」に任意の名前を入力し、[生成]をクリックする。
パスワードが生成されます。

メモ

- 生成されたパスワードをすぐに使う場合は、パスワードをドラッグアンドドロップするか、[クリップボードにコピー]をクリックして、使用する場所に貼り付けてください。
- パスワードをテキスト表示させたくない場合は、[生成されたパスワードをマスク]の左の□をクリックして、チェックマークを付けてください。
- 生成されたパスワードは、自動的に保存されます。パスワードを保存しない場合は、手順③の画面であらかじめ[生成されたパスワードを保存しない]の左の□をクリックして、チェックマークを付けてから[生成]をクリックしてください（後から削除することもできます➡下記）。
- 生成したいパスワードに文字数の制限が必要な場合は、手順③の画面で「パスワードの長さ」の▲▼をクリックして、あらかじめパスワードの長さを調整してから、[生成]をクリックしてください。また、[高度なオプション]をクリックすると、より詳細な指示内容に従ってパスワードを生成できます。

④ [×]（Windows XPの場合は[×]）をクリックする。

パスワードを管理する（登録されているパスワードを削除する）

①「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [ストロングパスワードジェネレータ]-[生成されたパスワード]をクリックする。

③ 指紋認証の画面で登録している指をスライドさせ認証を行う。
登録しているパスワードの一覧が表示されます。
パスワードをクリックして選択し、[クリップボードにコピー]をクリックすると選択したパスワードがクリップボードにコピーされますので、使用する場所に貼り付けてください。
パスワードをクリックして選択し、[削除]をクリックして、[適用]をクリックすると選択したパスワードが一覧から削除されます。

④ [×]（Windows XPの場合は[×]）をクリックする。

生成したパスワードをパスワードバンクに登録する

生成したパスワードをパスワードバンクに登録するには、あらかじめ「パスワードを生成する」（➡19ページ）の手順でパスワードを生成しておいてください。

① パスワードバンクに登録したいパスワードの入力画面、またはダイアログ画面を表示する。

② 入力画面が選択されている状態で、登録している指をスライドさせる。
認証が成功すると、「バイオメトリック メニュー」画面が表示されます。

③「登録」をクリックする。

④「パスワードバンク登録ウィザード」画面で[次へ]をクリックする。
以降、画面の指示に従って操作してください。

⑤「成功」の画面が表示されたら、[完了]をクリックする。

⑥ （Windows XPの場合は）をクリックする。

ファイルやフォルダーを暗号化する（File Safe機能）

File Safeは、指紋認証を使ってファイルやフォルダーを暗号化できる機能です。
File Safeを使ってファイルやフォルダーを暗号化しておくと、指紋を登録している人以外は、そのファイルにアクセスすることができません。

重 要

● 指紋認証ユーティリティのアンインストール/再インストール、または本機を修理などに出す前には、File Safeで暗号化したファイルやフォルダーは解読し、リムーバブルディスクなどにコピーして、必ずバックアップを取ってください。修理により万一データの紛失・漏えいなどが生じても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

新しいファイルセーフを作成する

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [暗号化アーカイブ]-[File Safe]をクリックし、[新しいFile Safeの作成]をクリックする。

③ 暗号化アーカイブを作成する場所を指定し、ファイル名を入力して[保存]をクリックする。
指定した場所に新しい暗号化アーカイブが作成されます。
すでに作成されている暗号化アーカイブにファイルやフォルダーを追加するには、「ファイルやフォルダーを既存の暗号化アーカイブに追加する」（➡22ページ）をご覧ください。

④ ☒（Windows XPの場合は☒）をクリックする。

ファイルやフォルダーを暗号化する

ファイルやフォルダーを新しい暗号化アーカイブに追加する

① 暗号化するファイルやフォルダーを右クリックし、表示されたメニューから[新しい暗号化アーカイブに追加]をクリックする。

② 必要に応じて「アーカイブのファイル名」を変更し、[OK]をクリックする。

③ 元のファイルやフォルダーを削除する場合は[元のファイルを削除]、元のファイルやフォルダーを残す場合は[元のファイルを維持]をクリックする。

ファイルやフォルダーが暗号化されます。

● フォルダー、または複数ファイルが暗号化されたアーカイブの拡張子はuea、単一ファイルが暗号化されたアーカイブの拡張子はueafです。

ファイルやフォルダーを暗号化する（File Safe機能）

ファイルやフォルダーを既存の暗号化アーカイブに追加する

① 暗号化するファイルやフォルダーを右クリックし、表示されたメニューから[既存の暗号化アーカイブに追加]をクリックする。

② ファイルやフォルダーを追加する暗号化アーカイブを選択し、[開く]をクリックする。

メモ

●ファイルやフォルダーを追加できる「ファイルの種類」は、「暗号化アーカイブ（*.uea）」です。

③ ロックされているアーカイブに追加する場合は、指紋認証の画面で、登録している指をスライドさせ、認証を行う。

④ 元のファイルやフォルダーを削除する場合は[元のファイルを削除]、元のファイルやフォルダーを残す場合は[元のファイルを維持]をクリックする。

ファイルやフォルダーが既存の暗号化アーカイブに追加されます。

暗号化されたファイルやフォルダーを開く

暗号化アーカイブのロックを解除する

① 開く暗号化アーカイブを右クリックし、表示されたメニューから[アンロック]をクリックする。

② 指紋認証の画面で、登録している指をスライドさせ、認証を行う。
暗号化アーカイブのロックが解除されます。

③ ファイルやフォルダーをダブルクリックする。
ファイルやフォルダーが開きます。

メモ

●手順①で[開く]をクリックすると、ロックが解除された後ファイルやフォルダーが開きます。

暗号化アーカイブをロックする

① アンロックされた暗号化アーカイブを右クリックし、表示されたメニューから[ロック]をクリックする。
暗号化アーカイブがロックされます。

メモ

●次の手順で、アンロックされていたすべての暗号化アーカイブを一度にロックすることができます。
　① 登録している指をスライドさせる。
　② [すべてのアーカイブをロック]をクリックする。

応用編

暗号化されたファイルやフォルダーを解読する

暗号化アーカイブ内のすべてのファイルやフォルダーを解読する

① 解読する暗号化アーカイブを右クリックし、表示されたメニューから[解読先を指定]をクリックする。

② 保存先を選択し、[OK]をクリックする。

③ ロックされているアーカイブの場合は、指紋認証の画面で、登録している指をスライドさせ、認証を行う。

④ 解読前の暗号化アーカイブを削除する場合は[アーカイブを削除]、解読前の暗号化アーカイブを残す場合は[アーカイブを維持]をクリックする。

暗号化アーカイブ内の選択したファイルやフォルダーを解読する

① 解読するファイルやフォルダーがある暗号化アーカイブを開く(➡22ページ)。

② 解読するファイルやフォルダーを右クリックし、表示されたメニューから[解読先を指定]をクリックする。

③ 解読先を選択し、[OK]をクリックする。

④ 解読前のファイルやフォルダーを削除する場合は[元のファイルを削除]、解読前のファイルやフォルダーを残す場合は[元のファイルを維持]をクリックする。

他のユーザーに表示されないフォルダーを使う（Personal Safe機能）

Personal Safeは、指紋認証を使って非表示のフォルダー内にあるファイルを暗号化できる機能です。フォルダーは、デスクトップ上またはコンピューター（Windows XPの場合はマイコンピュータ）内に表示できます。このフォルダーは、本機を共有している他のユーザーには表示されません。

Personal Safeフォルダーの表示 / 非表示を切り替える

Personal Safeフォルダーを、デスクトップまたはコンピューター（Windows XPの場合はマイコンピュータ）に表示させるかどうかを切り替えます。フォルダーを非表示に設定してもフォルダー内のファイルには影響ありません。

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [暗号化アーカイブ]をクリックする。

③ [Personal Safe]をクリックする。

④ [デスクトップ上に表示]、[マイコンピュータ内に表示]をクリックして、Personal Safeフォルダーの表示 / 非表示を切り替える。

⑤ [適用]をクリックし、（Windows XPの場合は）をクリックして画面を閉じる。

Personal Safeフォルダーを開く

Personal Safeフォルダーがロックされている場合は、ロックを解除することによって標準のフォルダーと同様の操作ができます。

① Personal Safeフォルダーが表示されている場合は、Personal Safeフォルダーを右クリックし、表示されたメニューから[アンロック]をクリックする。

② 指紋認証の画面で、登録している指をスライドさせ、認証を行う。

③ Personal Safeフォルダーをダブルクリックする。

メモ

- Personal Safeフォルダーが表示されている場合は、デスクトップ画面が表示されている状態で登録している指をスライドさせ、[Personal Safeをアンロックして開く]をクリックすると、ロックが解除された後、フォルダーが開きます。「Personal Safeフォルダーの表示／非表示を切り替える」の手順④（➡上記）でPersonal Safeフォルダーをすべて非表示にした場合は、この操作はできません。
- 手順①で[開く]をクリックすると、ロックが解除された後、フォルダーが開きます。

Personal Safeフォルダーをロックする

① Personal Safeフォルダーを右クリックし、表示されたメニューから[ロック]をクリックする。

●Personal Safeフォルダーが表示されている場合は、デスクトップ画面が表示されている状態で登録している指をスライドさせ、[Personal Safeのロック]をクリックすると、Personal Safeフォルダーがロックされます。「Personal Safeフォルダーの表示／非表示を切り替える」の手順④（➡24ページ）でPersonal Safeフォルダーをすべて非表示にした場合は、この操作はできません。

応用編

重要な個人情報を保管する（E-Wallet）

E-Walletを使用すると、重要な個人情報を保管できます。また、オンラインショッピング時などに、よく使用する個人情報をあらかじめ保存しておいて、入力用のフォームに入力することもできます。

E-Walletに新しいレコードを登録する

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [E-Wallet]をクリックする。

③ [新しいレコード]をクリックし、登録する情報の種類を選択してクリックする。

④ 登録する情報の名前を変更する。

⑤ 登録する情報を入力、編集する。
各項目の名前を変更するには、変更する項目の をクリックして選択し、[名前変更]をクリックして任意の名前を入力してください。
各項目の値を変更するには、変更する項目の をクリックして選択し、[値の編集]をクリックして任意の値を入力してください。
新しい項目を追加するには、[追加]をクリックしてください。
項目を削除するには、削除する項目の をクリックして選択し、[削除]をクリックしてください。

⑥ [適用]をクリックし、 （Windows XPの場合は ）をクリックして画面を閉じる。

E-Walletに登録されているレコードを編集する

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [E-Wallet]をクリックする。

③ 編集するレコードをクリックして選択し、[編集]をクリックする。

④ 指紋認証の画面で登録している指をスライドさせ、認証を行う。

⑤ レコードの内容を入力、変更する。
各項目の名前を変更するには、変更する項目の をクリックして選択し、[名前変更]をクリックして任意の名前を入力してください。
各項目の値を変更するには、変更する項目の をクリックして選択し、[値の編集]をクリックして任意の値を入力してください。
新しい項目を追加するには、[追加]をクリックしてください。
項目を削除するには、削除する項目の をクリックして選択し、[削除]をクリックしてください。

⑥ [適用]をクリックし、 （Windows XPの場合は ）をクリックして画面を閉じる。

E-Walletに登録されているレコードを削除する

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [E-Wallet]をクリックする。

③ 削除するレコードをクリックして選択し、[削除]をクリックする。

④ [適用]をクリックし、（Windows XPの場合は）をクリックして画面を閉じる。

E-Walletを使用してフォームに入力する

E-Walletを使用してフォームに入力するには、あらかじめ「E-Walletに新しいレコードを登録する」（➡26ページ）の手順でレコードを登録しておいてください。

① 入力したいフォームの入力画面を表示する。

② 入力画面が選択されている状態で、登録している指をスライドさせる。
認証が成功すると、「バイオメトリック メニュー」画面が表示されます。

③ [E-Wallet]をクリックする。

④ 使用するレコードを選択するか、[E-Wallet全体を表示]を選択して[E-Wallet]ページを表示し、使用するレコードを選択する。

⑤ 選択したレコードの詳細画面で、入力する項目のをドラッグして、フォームフィールドなどにドロップする。

内蔵セキュリティチップ（TPM）と組み合わせて使う

本機に内蔵されている内蔵セキュリティチップ（TPM）と指紋認証機能を組み合わせて使用すると、指紋関連のデータが内蔵セキュリティチップ（TPM）で保護されます。

内蔵セキュリティチップ（TPM）と組み合わせて使う場合は、次の流れで設定します。

内蔵セキュリティチップ（TPM）を使えるようにする

指紋認証ユーティリティで内蔵セキュリティチップ（TPM）を初期化する

指紋認証ユーティリティで複数要素の設定をする

ステップ1　内蔵セキュリティチップ（TPM）を使えるようにする

『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』をご覧になり、次の設定を行ってください。

- Security Platformをインストールする
  - TPMを有効にする
  - Security Platformをインストールする
- Security Platformの設定をする
  - Security Platformの所有者の設定をする

『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』の見方

① デスクトップの をダブルクリックする。（Windows XPの場合は[スタート]-[操作マニュアル]をクリックする。）

② [操作マニュアル]-[（セキュリティ）]をクリックし、[データを保護・暗号化する]（Windows XPの場合は[データを暗号化する]）をクリックする。

③説明をよく読み、「内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き」を表示する。

メモ

- 内蔵セキュリティチップ（TPM）は次のような機能にも利用することができます。
  - ファイルとフォルダーの暗号化（暗号化ファイルシステム EFS）
  - 電子メールの保護（Windows 7の場合はWindows Liveメールなど／Windows XPの場合はOutlook Express® など）
  - Microsoft® Word/Microsoft® Excel のマクロへの署名

  詳しくは、『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』をご覧ください。

応用編

ステップ2　内蔵セキュリティチップ(TPM)を初期化する

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [詳細設定]-[信頼化プラットフォームモジュール(TPM)]をクリックし、[初期化]をクリックする。

③ [OK]をクリックする。

メモ

● 内蔵セキュリティチップ（TPM）の初期化でエラーが起きた場合は、Security Platformが使えるように設定されているか確認してください（➡28ページ）。

ステップ3　指紋認証ユーティリティで複数要素の設定をする

ステップ2から引き続き設定を行う場合は、画面の[複数要素]をクリックし、手順③から設定を行ってください。

① 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

② [複数要素]をクリックする。

③ 認証方式を選択する。

④ [適用]をクリックし、 （Windows XPの場合は ）をクリックして画面を閉じる。

メモ

● 手順③で[指紋＋ TPMキー（PINあり）]を選択した場合、PIN（Personal Identification Numberの略。暗証番号のこと）を設定する画面が表示されます。任意の文字列を入力し、[OK]をクリックしてください。
Windowsへのログオンや指紋認証ユーティリティの設定変更時などに、PINの入力が必要な場合があります。

内蔵セキュリティチップ（TPM）の詳しい使い方については、以下の手順でヘルプをご覧ください。

< Windows 7の場合>
（スタート）-[すべてのプログラム]-[Infineon Security Platform ソリューション]-[ヘルプ]をクリックしてください。
< Windows XPの場合>
[スタート]-[すべてのプログラム]-[Infineon Security Platform ソリューション]-[ヘルプ]をクリックしてください。

パスポートのバックアップ／復元をする

登録した指紋データやログオンの認証情報などは、パスポートというファイル（拡張子はvtp）に記録されます。万一に備えて、パスポートをリムーバブルディスクやネットワークドライブなどにバックアップしておくことをお勧めします。バックアップできるデータには、次のものがあります。

- 指紋データ
- ログオン資格情報（ユーザーアカウントと指紋データを関連付ける情報）

指紋センサーやハードディスクドライブの交換・修理時、またはWindowsの再インストール時やOSの変更時には、バックアップしたパスポートのファイルが必要になります。

重 要

- バックアップは定期的に取るようにしてください。
- バックアップしたパスポートのファイルをハードディスクドライブに保存したままにしないでください。
  第三者に見られる可能性があります。

パスポートをバックアップする

① パスポートをバックアップしたいユーザーでWindowsにログオンする。
その他のユーザーでログオンしている場合は、（スタート）-（Windows XPの場合は[スタート]-[ログオフ]）をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、パスポートをバックアップしたいユーザーでログオンしてください。

② 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

③ [アカウント操作]-[ユーザーデータのエクスポート]をクリックし、[今すぐエクスポート]をクリックする。

メ モ

- [すべての変更を自動バックアップ]を選んだ場合は、パスポートに変更が加えられるたびに自動でバックアップが行われます。
  自動バックアップされたファイルは、c:¥Users¥（ユーザーアカウント名）¥AppData¥Localに保存されます（Windows XPの場合はc:¥Documents and Settings¥（ユーザーアカウント名）¥Local Settings¥Application Data）。

④ バックアップパスワードを入力して、[OK]をクリックする。

⑤ 手順③の画面で、[すべての変更を自動バックアップ]を選んだ場合は、手順⑥に進む。
[手動バックアップ]を選んだ場合は、エクスポート先のフォルダーを指定し、任意の名前を入力して[保存]をクリックする。
リムーバブルディスクなどにバックアップする場合は、保存した後にファイルを移動してください。

⑥ （Windows XPの場合は）をクリックして画面を閉じる。

パスポートを復元する

① パスポートを復元したいユーザーでWindowsにログオンする。
その他のユーザーでログオンしている場合は、（スタート）-（Windows XPの場合は[スタート] - [ログオフ]）をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、パスポートを復元したいユーザーでログオンしてください。

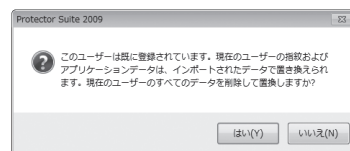
② 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡ 12ページ）。

③ [アカウント操作]-[ユーザーデータのインポート]をクリックする。

④ バックアップしたパスポートのファイル（***.vtp）をクリックして選択し、[開く]をクリックする。

⑤ バックアップパスワードを入力して、[OK]をクリックする。

重要

● 指紋データが登録されている状態でパスポートを復元しようとすると、手順⑤の後に右の画面が表示されます。右の画面で[はい]をクリックすると、現在のユーザーのすべてのデータを上書きして置き換えます。

⑥ 指紋認証の画面で登録している指をスライドさせ、認証を行う。

設定編

パスワードバンクのバックアップ／復元をする

再インストールやOSの変更を行うと、ハードディスクの内容は消去され、工場出荷時の状態に戻ります。パスワードバンクに登録した情報を定期的にバックアップしておけば、万一再インストールやOSの変更をした場合でも、Webページやダイアログ画面を開いてパスワードを登録し直す必要がなくなります。

パスワードバンクをバックアップする

① パスワードバンクをバックアップしたいユーザーでWindowsにログオンする。
その他のユーザーでログオンしている場合は、（スタート）-（Windows XPの場合は[スタート]-[ログオフ]）をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、パスワードバンクをバックアップしたいユーザーでログオンしてください。

② 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

③ [パスワードバンク]-[登録の管理]をクリックする。

④ バックアップするWebサイトやアプリケーションダイアログをクリックして、[エクスポート]をクリックする。
[エクスポート]が表示されていない場合は、[エクスポートまたはインポート]をクリックしてボタンを表示させてください。

⑤ [現在のディレクトリをエクスポート]または[すべてエクスポート]をクリックする。

⑥ エクスポート先のフォルダーを指定し、任意の名前を入力して[保存]をクリックする。
リムーバブルディスクなどにバックアップする場合は、保存した後にファイルを移動してください。

⑦ バックアップしたパスワードバンクのデータを第三者による不正使用から保護するためのパスワード（登録ファイルパスワード）を設定し、[OK]をクリックする。

⑧ （Windows XPの場合は）をクリックして画面を閉じる。

設定編

パスワードバンクを復元する

① パスワードバンクを復元したいユーザーでWindowsにログオンする。
その他のユーザーでログオンしている場合は、（スタート）-（Windows XPの場合は[スタート]-[ログオフ]）をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、パスワードバンクを復元したいユーザーでログオンしてください。

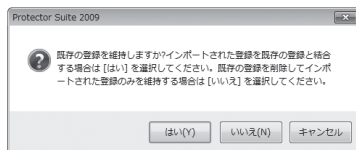
②「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

③ [パスワードバンク]-[登録の管理]をクリックする。

④ [インポート]をクリックする。
[インポート]が表示されていない場合は、[エクスポートまたはインポート]をクリックしてボタンを表示させてください。

⑤ バックアップしたファイルをクリックして選択し、[開く]をクリックする。

メモ

● 次の画面が表示された場合、[はい]をクリックすると、現在のパスワードバンクの情報にWebサイトやアプリケーションダイアログを追加します。[いいえ]をクリックすると、すでに登録されている情報が削除され、バックアップしたWebサイトやアプリケーションダイアログだけが登録されます。

⑥ バックアップ時に設定した登録ファイルパスワードを入力し、[OK]をクリックする。

⑦ [適用]をクリックする。

⑧ （Windows XPの場合は）をクリックして画面を閉じる。

設定編

パワーオンセキュリティの設定を変更する

指紋認証ユーティリティの初期設定でパワーオンセキュリティを無効に設定した後に有効に変更するなど、パワーオンセキュリティの有効／無効を切り替えるには、次の手順を行ってください。

パワーオンセキュリティを有効 / 無効にする

① ＜ Windows 7の場合＞
管理者の権限でWindowsにログオンする。
標準ユーザーでログオンしている場合は、（スタート）- をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、管理者の権限でログオンしてください。
＜ Windows XPの場合＞
コンピューターの管理者の権限でWindowsにログオンする。
制限ユーザーでログオンしている場合は、[スタート]-[ログオフ]をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、コンピューターの管理者の権限でログオンしてください。

② 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

③ [状況]をクリックする。

④ 「パワーオンセキュリティの状態」の[変更]をクリックする。

⑤ ＜ Windows 7の場合＞
[編集]をクリックする。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]をクリックしてください。
＜ Windows XPの場合＞
手順⑥に進む。

⑥ ＜有効にする場合＞
[パワーオンセキュリティの有効化]をクリックしてチェックマークを付ける。
＜無効にする場合＞
[パワーオンセキュリティの有効化]をクリックしてチェックマークを外す。

⑦ [適用]をクリックする。

⑧ （Windows XPの場合は）をクリックする。

● パワーオンセキュリティの有効 / 無効の切り替えは、上記の手順で設定してください。
上記の手順でパワーオンセキュリティを無効に設定した場合は、「セットアップユーティリティを設定する」（➡36ページ）で[パワーオンセキュリティ]を[有効]に設定しても、パワーオンセキュリティは機能しません。

初期設定でパワーオンセキュリティを無効にしている場合

指紋認証ユーティリティの初期設定でパワーオンセキュリティを無効に設定している場合、パワーオンセキュリティを初めて有効に設定するときは、上記の手順⑦の後に、次の手順が必要です。

① [状況]をクリックする。

② 「BIOSパスワードの状態」の[変更]をクリックする。

③ [パスワードの管理]をクリックする。

④ 「パスワードのタイプ」の[パワーオン]をクリックし、[パスワードの設定]をクリックする。

⑤ パワーオンセキュリティ用のパスワード（パワーオンパスワード）を入力し、[OK]をクリックする。
大文字／小文字の違いに注意して入力してください。

⑥ [閉じる]をクリックする。

⑦ [パワーオン]の左の をクリックする。

⑧ 手順⑤で入力したパワーオンパスワードを入力し、[OK]をクリックする。

⑨ [適用]をクリックする。

⑩ （Windows XPの場合は ）をクリックする。

メモ

● パワーオンセキュリティを有効にしている場合、パワーオンセキュリティによる指紋認証を1回行うだけでWindowsへのログオンまで自動的に行うように設定することができます（初期状態では有効に設定されています）。
有効／無効を切り替えるには、コントロールセンターホームを起動後、次の手順を行ってください。

① < Windows 7の場合>
管理者の権限でWindowsにログオンする。標準ユーザーでログオンしている場合は、（スタート）- をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、管理者の権限でログオンしてください。
< Windows XPの場合>
コンピューターの管理者の権限でWindowsにログオンする。
制限ユーザーでログオンしている場合は、[スタート]-[ログオフ]をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、コンピューターの管理者の権限でログオンしてください。
② 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。
③ [状況]をクリックする。
④ 「パワーオンセキュリティの状態」の[変更]をクリックする。
⑤ < Windows 7の場合>
[編集]をクリックする。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]をクリックしてください。
< Windows XPの場合>
手順⑥に進む。
⑥ [ブート前に指紋認証を行い、Windowsに自動的にログオンできるようにする]をクリックし、チェックマークを付ける／外す。
⑦ [適用]をクリックする。
⑧ （Windows XPの場合は ）をクリックする。

セットアップユーティリティを設定する

セットアップユーティリティは、本機の動作環境（パスワードや起動ドライブなど）を設定するためのユーティリティです。本機には、「セキュリティ」メニューの中に、指紋認証の設定を行う[指紋認証セキュリティ]という項目が用意されています。

セットアップユーティリティの起動／操作／終了方法については、『取扱説明書 基本ガイド』の「セットアップユーティリティ」をご覧ください。

「セキュリティ」メニューの[指紋認証セキュリティ]

[指紋認証セキュリティ]のサブメニューを表示したり設定を変更したりするには、あらかじめ「セキュリティ」メニューの[スーパーバイザーパスワード設定]でスーパーバイザーパスワードを設定しておく必要があります。
[指紋認証セキュリティ]を選んで Enter を押すと、サブメニューが表示されます。サブメニューを閉じるときは、Esc を押してください。設定が保存されます。

（アンダーラインは工場出荷時の設定）

メニュー	働き	選択項目
設定サブメニュー保護	このサブメニューの表示／非表示や、設定の可／不可を設定します。	保護しない 保護する（下線）
パワーオンセキュリティ	パワーオンセキュリティを有効/無効にする（➡34ページ）で設定した内容が反映されます。34ページの手順⑥でパワーオンセキュリティを無効に設定した場合は、このメニューで有効にすることはできません。指紋認証ユーティリティが使用できる場合は、このメニューは使用しないでください。	無効（下線） 有効
セキュリティモード	[簡易]に設定した場合は、登録した指をスライドさせるだけでWindowsが起動します。 [高度]に設定した場合は、パワーオンセキュリティの指紋認証後にさらにスーパーバイザーパスワードの入力が必要になります。 パワーオンセキュリティが無効の場合は表示されません。	簡易（下線） 高度
指紋認証用パスワードの初期化	指紋認証ユーティリティが使用できない状態でパワーオンパスワードを消去したいときは Enter を押し、[実行する]を選んで Enter を押してください。指紋認証ユーティリティが使用できる場合は、[実行する]を選ばないでください。 パワーオンパスワードが設定されている場合に表示されます。	実行しない（下線） 実行する

設定編

指紋データを消去する

Q&A（➡41ページ）を確認してもトラブルが解決しなかった場合は、指紋データを消去することで解決することがあります。ただし、指紋データの消去を行うとパスポートなどのデータは完全に消去されます。指紋データを消去する前には、パスポートなどのデータをバックアップしてください。
本機には、指紋データなどお客さまの個人的な情報が保存されています。本機を廃棄・譲渡する場合には、指紋データなどを完全に消去してください。データを消去せずに本機を譲渡した場合は、指紋認証機能が働いているために他の人では本機を起動できない場合があります。この場合、修理が必要になります。ご注意ください。
指紋センサーに登録されるデータは指紋の画像データではありません。この登録データから指紋の画像を再生することはできません。

指紋データを消去するまでの流れ

本機に登録されている指紋データを消去する場合、次の流れで操作してください。

●指紋認証機能と内蔵セキュリティチップ（TPM）を組み合わせてお使いの方がWindowsの再インストールやOSの変更を行う場合は、パスポートやパスワードバンクなどのデータの他に、内蔵セキュリティチップ（TPM）のバックアップも必要です。詳しくは、『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』「使用上のお願い」の「バックアップについて」をご覧ください。

Windowsを再インストール/OSを変更したい

Q&Aを見てもトラブルが解決しない

本機を廃棄・譲渡するのでデータを初期化したい

暗号化アーカイブ、Personal Safeフォルダー内のデータ、パスポート、パスワードバンクをバックアップする（➡21ページ、24ページ、30ページ、32ページ）

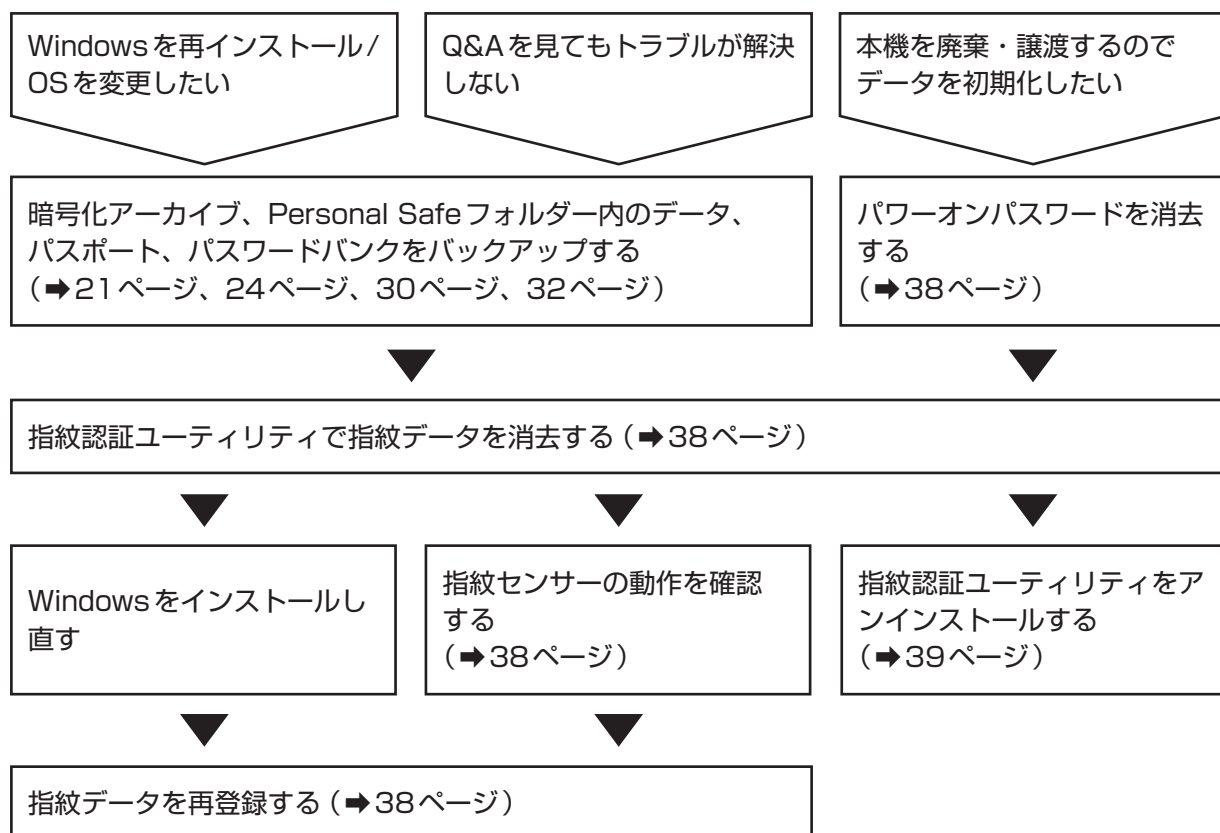
パワーオンパスワードを消去する（➡38ページ）

指紋認証ユーティリティで指紋データを消去する（➡38ページ）

Windowsをインストールし直す

指紋センサーの動作を確認する（➡38ページ）

指紋認証ユーティリティをアンインストールする（➡39ページ）

指紋データを再登録する（➡38ページ）

指紋データを消去する

パワーオンパスワードを消去する

① 「パワーオンセキュリティを有効 / 無効にする」（➡34ページ）の手順①〜⑦を行い、パワーオンセキュリティを無効にする。

② [コントロールセンターホーム]-[パワーオンパスワード]をクリックし、[パスワードの管理]をクリックする。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は[はい]をクリックしてください。

③ 「パスワードのタイプ」の[パワーオン]をクリックし、[パスワードの設定解除]をクリックする。

④ パワーオンセキュリティのパスワード（パワーオンパスワード）を入力し、[OK]をクリックする。

⑤ [閉じる]をクリックする。

⑥ （Windows XPの場合は）をクリックする。

すべてのユーザーデータを消去する

指紋認証機能を複数のユーザーで使用している場合は、ユーザーごとに手順①〜⑥を行ってください。

① データを消したいユーザーでWindowsにログオンする。
その他のユーザーでログオンしている場合は、（スタート）-（Windows XPは[スタート]-[ログオフ]）をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、データを消したいユーザーでログオンしてください。

② 「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。

③ [アカウント操作]-[ユーザーデータの削除]をクリックする。

④ 「XXXXX（ユーザーアカウント名）のすべての指紋およびアプリケーションデータを削除しますか？」という画面で[はい]をクリックする。

⑤ 指紋データがすべて消去されたか確認する。
Windowsのログオンパスワードを入力して[送信]をクリックし、指紋データを削除したユーザーが表示されていないことを確認してください。

⑥ （Windows XPの場合は）をクリックする。

指紋センサーの動作を確認する

「コントロールセンターホーム」の画面（➡12ページ）で[チュートリアル]をクリックし、画面に従ってスキャンのテストを行ってください。センサーが正しく動作していない場合は、本機を再起動して、再度テストを行ってください。再起動後も指紋センサーが正しく動作しない場合は、指紋センサーの故障が考えられます。ご相談窓口にご相談ください。

指紋データを再登録する

指紋データの再登録には、次の2つがあります。

- 新たにデータを登録する（バックアップしたデータを使わない）。
- バックアップしたデータを登録（復元）する。

Windowsの再インストールやOSの変更を行った場合は、次の手順で指紋認証ユーティリティの初期設定を行ってください。

①「ステップ1 ユーザーアカウントとパスワードを設定する」から「ステップ3 指紋認証ユーティリティ（Protector Suite 2009）をセットアップする」を行う（➡6ページ）。

②「ステップ4 指紋を登録する」の「指紋データの登録場所を選択する」の手順①～④を行う（➡8ページ）。
バックアップした指紋データを復元する場合は、登録場所を変更しないでください。異なる登録場所を選択すると、指紋認証が使えなくなります。

③「認証」画面で、（Windows XPの場合は）をクリックする。

指紋データを新規に登録する

（スタート）（Windows XPの場合は［スタート］）-［すべてのプログラム］-［Protector Suite］-［コントロールセンター］をクリックし、画面に従って指紋データの登録などを行ってください。操作手順については、「ステップ4 指紋を登録する」の「Windowsのログオンパスワードを登録する」（➡8ページ）をご覧ください。

- パスワードバンクを復元する場合
- 「パスワードバンクを復元する」（➡33ページ）を行ってください。

バックアップデータを登録（復元）する

バックアップしておいたデータを指紋認証ユーティリティに登録します。すべてのデータを一度に復元したり、特定のデータのみを個別に復元したりすることができます。

- パスポートやパスワードバンクを一度に復元する場合
「パスポートを復元する」（➡31ページ）を行ってください。バックアップしていたアプリケーションランチャー、パスワードバンク、ストロングパスワードジェネレータ、E-Walletも、パスポートの復元時に自動的に復元されます。

指紋認証ユーティリティ（Protector Suite Software）をアンインストールする

本機を廃棄・譲渡する場合は、最後に指紋認証ユーティリティをアンインストールしてください。

重 要

- 指紋認証ユーティリティをアンインストールする前に必ずパワーオンパスワードを消去しておいてください（➡38ページ）。
パワーオンパスワードを消去せずに、指紋認証ユーティリティをアンインストールした場合は、セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューの［パワーオンセキュリティ］を［無効］に設定してください（➡36ページ）。
- 手順⑥で［全てのProtector Suite 2009のデータを削除する］をクリックしても、お客さまご自身で作成されたデータ（Personal Safeに保存したデータやFile Safeで暗号化したデータなど）は、削除されません。不要な場合は、指紋認証ユーティリティをアンインストールする前に削除しておいてください。

指紋データを消去する

＜ Windows 7の場合＞

① 管理者の権限でWindowsにログオンする。
標準ユーザーでログオンしている場合は、（スタート）-をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、管理者の権限でログオンしてください。

② 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了する。

③ （スタート）-[コントロールパネル]-[プログラムのアンインストール]をクリックする。

④ [Protector Suite 2009]をクリックし、[変更]をクリックする。

⑤ [削除]をクリックする。

⑥ [全てのProtector Suite 2009のデータを削除する]をクリックし、[次へ]をクリックする。

⑦ 「Protector Suite 2009のアンインストール」画面で、[次へ]をクリックする。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]をクリックしてください。

⑧ [完了]をクリックする。

⑨ [はい]をクリックする。
本機が再起動します。

＜ Windows XPの場合＞

① コンピューターの管理者の権限でWindowsにログオンする。
制限ユーザーでログオンしている場合は、[スタート]-[ログオフ]をクリックし、[ログオフ]をクリックしていったんログオフしてから、コンピューターの管理者の権限でログオンしてください。

② 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了する。

③ [スタート]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]をクリックする。

④ [Protector Suite 2009]をクリックし、[変更]をクリックする。

⑤ [削除]をクリックする。

⑥ [全てのProtector Suite 2009のデータを削除する]をクリックし、[次へ]をクリックする。

⑦ 「Protector Suite 2009アンインストール」画面で、[次へ]をクリックする。

⑧ [完了]をクリックする。

⑨ [はい]をクリックする。
本機が再起動します。

Q&A

指紋データが登録できない、うまくスキャンできないなどのトラブルが発生した場合は、41 ～ 43ページで解決方法を確認してください。指紋データを消去（➡37ページ）しても問題が解決されない場合は、ご相談窓口にご相談ください。

内　容	対　策
指紋が指紋センサーに登録されない。または認証できない	指を正しくスライドさせてください。登録と認証については、「指紋認証の初期設定を行う」（➡5ページ）、または「コントロールセンターホーム」画面（➡12ページ）で[ヘルプ]をクリックしてご覧ください。
	指紋センサーの表面が汚れていたり、指が乾燥していたりすると、指紋が正しく登録／認証されない場合があります。詳しくは、「指紋センサーの取り扱いについて」（➡2ページ）をご覧ください。
	指紋認証の画面で ☒（Windows XPの場合は ☒）をクリックするか Esc を押すことで、バックアップパスワードを入力して認証を行うことができます。バックアップパスワードを設定していない場合は、Windowsのログオンパスワードを入力してください。
	まれに指紋認証に必要な特徴を十分検出できない場合があります。その場合は、他の指を使って登録／認証を行ってください。 上記の方法を行っても改善されない場合は、指紋センサーに不具合がある場合があります。ご相談窓口にご相談ください。
故障などで、指紋センサーを交換した場合	パスポートをハードディスクに登録している場合は、指紋センサーの交換後も、登録している指で引き続き指紋認証が使用できます。なお、パワーオンセキュリティを有効にする場合は、「パワーオンセキュリティを有効 / 無効にする」（➡34ページ）で、再度設定を行ってください。 パスポートを指紋センサーに直接登録している場合は、指紋データを新規に登録し直してください（➡8ページ）。パスポートをバックアップしている場合は、パスポートの復元を行ってください（➡31ページ）。
けがなどで、登録した指が使えない	2つ以上の指紋を登録している場合は、使える指を使用してください。
	1本の指しか登録していなかったり、登録した複数の指がどれも使えなかったりする場合は、指紋認証の画面で ☒（Windows XPの場合は ☒）をクリックするか Esc を押すことでバックアップパスワードを入力して認証を行うことができます。バックアップパスワードを設定していない場合は、Windowsのログオンパスワードを入力してください。 なお、1本の指しか登録していない場合は、次の手順で他の指の指紋を登録してください。 ①「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。 ② [指紋の管理]をクリックする。 ③ 画面の指示に従って、他の指の指紋データを登録する。
指紋認証ユーティリティを再インストールしたい	指紋認証ユーティリティを再インストールする前に、アンインストールを行ってください（➡39ページ）。アンインストールを行うとき登録しているデータを消去するかどうかを選択できます。指紋認証ユーティリティの再インストール後にパスポートやパスワードバンクのデータを引き続き使用する場合は、[Protector Suite 2009のデータを後から使用できるように残す]を選択してください。再インストール後、データを再び使用することができます。[全てのProtector Suite 2009のデータを削除する]を選択した場合は、指紋認証ユーティリティの再インストール後、指紋データの再登録が必要です。
指紋認証ユーティリティのアンインストールの後に暗号化アーカイブにアクセスしたい	暗号化アーカイブは、指紋認証ユーティリティを使用している場合のみアクセスできます。指紋認証ユーティリティをアンインストールした場合は、指紋認証ユーティリティの再インストールが必要です。

内　容	対　策
指紋センサーからデータを消去したい	「指紋データを消去する」(➡37ページ）をご覧になり、指紋データを消去してください。
指紋データの登録後、ユーザーアカウント名やWindowsのログオンパスワードを変更してしまった	後からユーザーアカウント名やWindowsのログオンパスワードを変更した場合でも、指紋認証ユーティリティの設定を変更する必要はありません。最初に登録した指の指紋がそのままお使いいただけます。
データを消去したが指紋データがまだ残っている、またはセットアップユーティリティの[指紋認証セキュリティ]（➡36ページ）で[指紋認証用パスワードの初期化]で[実行する]を選択してしまった	「指紋データを消去する」(➡37ページ）をご覧になり、指紋データを消去してください。
パソコン起動時、指紋データを登録しているのに指紋認証の画面が表示されず、パスワードの入力画面が表示される	次のような原因により、パワーオンパスワード（パワーオンセキュリティのパスワード）に空のパスワードが設定されているか、パワーオンセキュリティに指紋データが設定されていません。 ● パワーオンセキュリティを有効にした後で、パワーオンパスワードを設定する前に指紋認証ユーティリティを終了した。 ● [パワーオンセキュリティの状態]の設定画面で、[パワーオンセキュリティの有効化]にチェックマークを付けた。 ●「指紋認証用のパスワードを入力してください」という画面で Enter を押すか、パワーオンパスワードを入力して本機を起動してください。Enter を押して起動した場合は、次の手順でパワーオンパスワードを設定してください。 ①「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。 ② [状況]をクリックする。 ③「BIOSパスワードの状態」の[変更]をクリックする。 ④ [パスワードの管理]をクリックする。 ⑤ [パワーオン]をクリックし、[パスワードの設定]をクリックする。 ⑥ 画面の指示に従って、操作する。
内蔵セキュリティチップ（TPM）で不具合が発生した場合	指紋認証と内蔵セキュリティチップ（TPM）を組み合わせて使用している場合、内蔵セキュリティチップ（TPM）が壊れたり使用できなくなったりすると、指紋認証ユーティリティの複数要素でTPMと組み合わせた認証要素は使用できません。 バックアップパスワードを作成していない場合は、指紋認証のデータを消去してください（➡37ページ）。 バックアップパスワードを作成している場合は、次の手順で指紋認証機能と内蔵セキュリティチップ（TPM）の関連付けを一時的に解除してください。 ①「コントロールセンターホーム」画面を表示する（➡12ページ）。 ② [複数要素]をクリックする。 ③「複数要素」画面で、[指紋＋TPMキー（PINあり）]、[指紋＋TPMキー]、[指紋＋指紋リーダーキー (TPMあり)]以外をクリックして[適用]をクリックする。 内蔵セキュリティチップ（TPM）の修復後、複数要素の設定を行ってください（➡29ページ）。

内　容	対　策
「センサーから指をはなしてください」と表示される	指紋センサーを使用しない場合は、次の手順で指紋センサーを一時的に無効にすることができます。 ① <Windows 7の場合＞ 画面右下の通知領域のをクリックし、（指紋ソフトウェア）を右クリックする。 <Windows XPの場合＞ 画面右下のタスクトレイの（指紋ソフトウェア）を右クリックする。 ② [センサーを使わない]をクリックする。 指紋センサーを使用する場合は、次の手順で指紋センサーを有効にしてください。 ① <Windows 7の場合＞ 画面右下の通知領域のをクリックし、（指紋ソフトウェア）を右クリックする。 <Windows XPの場合＞ 画面右下のタスクトレイの（指紋ソフトウェア）を右クリックする。 ② [センサーを使う]をクリックする。